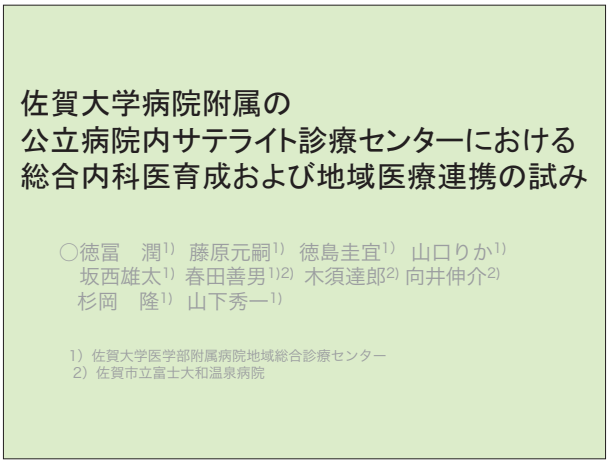
演題 008

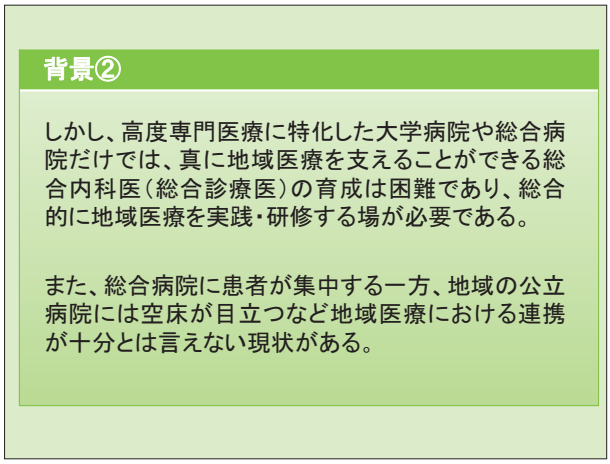
# 佐賀大学病院附属の公立病院内サテライト診療センターにおける総合内科医育成および地域医療連携の試み

発表者 **徳冨　潤**（佐賀県　佐賀大学医学部附属病院　地域総合医療センター）

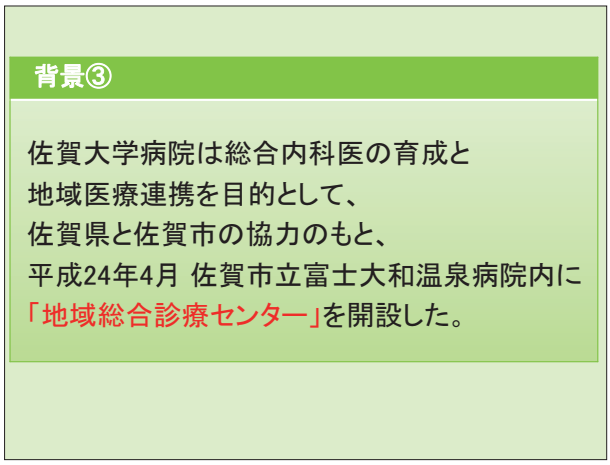
共同研究者 藤原　元嗣、徳島　圭宜、山口　りか、坂西　雄太、百武　正樹、春田　善男、木須　達郎、向井　伸介、杉岡　隆、山下　秀一



佐賀大学医学部地域医療支援学講座では平成22年度より、地域を支える総合内科医育成のため「総合内科医育成　後期研修プログラム」を展開中である。同プログラムでは佐賀県内４つの基幹病院（佐賀大学病院・佐賀県医療センター・唐津赤十字病院・嬉野医療センター）の各専門内科をローテート（週１日は大学病院での研修を行う）し、４～５年かけて研修を行う。




しかし、高度専門医療に特化した大学病院や総合病院だけでは真に地域医療を支えることができる総合内科医（総合診療医）育成は困難であり、総合的に地域医療を実践・研修する場が必要である。また、高次総合病院に患者が集中する一方、地域の公立病院には空床が目立つなど地域医療における連携が十分とは言えない現状がある。




そこで、佐賀大学医学部附属病院は総合内科医（総合診療医）の育成と地域医療連携を目的として、佐賀県・佐賀市の協力のもと平成24年４月佐賀市立富士大和温泉病院内に「地域総合診療センター（以下、地総センター）」を開設した。

## 地域背景

医療圏
・佐賀市大和町
　診療所　11ヶ所病院　1ヵ所
・佐賀市富士町
　診療所　2ヶ所 病院　1ヵ所
・佐賀市三瀬村
　診療所　1ヶ所
人口：28,095人(佐賀市235,521人)
高齢化率：37%

対象となる地域背景だが、佐賀市北部・人口約28,000人の高齢化の進んだ（高齢化率：37%）山間地域である。大学病院と富士大和温泉病院の位置関係は地図に示した通り。乗用車で約20分程度の距離である。

## 佐賀市立富士大和温泉病院 概要

一般急性期病床(10:1)：54床
医療療養病床(25:1)：44床

常勤医　8名　非常勤医　2名

標榜科
内科(消化器内科・血液内科・膠原病内科・呼吸器内科・腎臓内科)、外科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

主な院内設備
CT(16列高速ヘリカルCT)、MRI(1.0テスラ)、上部・下部消化管内視鏡、人工透析室

佐賀市立富士大和温泉病院は一般急性期病床（10：１看護）が54床、医療療養病床（25：１看護）が44床の計98床。常勤医８名（地総センター常勤スタッフ２名含む）、非常勤医２名である。内科（消化器内科・血液内科・膠原病内科・呼吸器内科・腎臓内科）、外科、整形外科、眼科、リハビリテーション科を標榜し、主な院内設備としてCT（16列高速ヘリカルCT）、MRI（1.0テスラ）、上部・下部消化管内視鏡、人工透析室などがある。バックアップ施設となる大学病院までの距離も約10kmと近く、急性期から慢性期まで地域医療を行うのに十分な環境であるといえる。

## 地域総合診療センター 概要

常勤医　　2名
指導医　　3名
(佐賀大学より教授・講師が定期訪問)

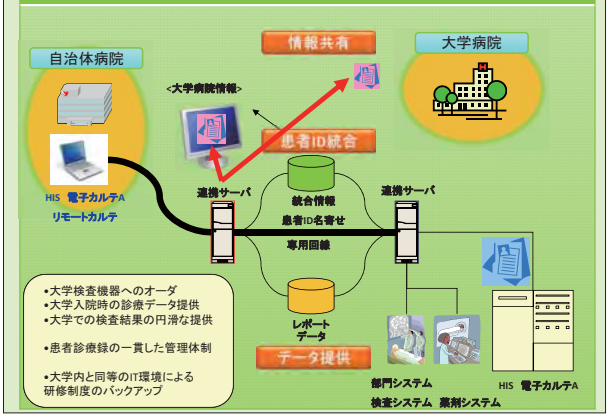
・標榜科「総合診療科」
・内科を中心とした一般的な入院・外来診療
・外傷を含めた救急診療

## 地域総合診療センターでの指導

佐賀大学病院より総合診療部
および地域医療支援学講座
教授・講師が週3～4回
訪問し回診・カンファレンスを行う
(visit teaching)
＊学生・研修医の実習・研修も行う

次に地域総合診療センターの概要であるが、常勤医として佐賀大学総合診療部・佐賀大学地域医療支援学講座から若手医師２名が勤務。「総合診療科」を標榜し、内科を中心とした一般的な入院・外来診療、外傷を含めた救急診療を行う。そこに佐賀大学病院より総合診療部及び地域医療支援学講座から教授・講師が週３～４回訪問し回診・カンファレンスを行うという指導体制を取っている（visit teaching）。また、佐賀大学医学部の学生、附属病院の研修医の実習・研修も行っている。

## 大学病院とのITインフラの整備




地総センター開設にあたり、大学病院と富士大和温泉病院間のITインフラの整備を行った。専用の連携サーバーを設置することにより、大学病院の電子カルテを富士大和温泉病院でリアルタイムに閲覧でき、スムーズな患者情報共有が可能になった。また、大学内と同等のIT環境によって研修制度のバックアップも可能である。

**病院間での移送**

大学病院を受診し、
当日入院加療が必要と
判断されるも高次医療機関
での加療は不要な患者を
専用車で地域総合診療
センターに搬送可能
(所要時間　約20分間)

また交通インフラの整備も行い、病院間を専用車両で患者搬送が可能である。例えば、大学病院総合外来を受診し、当日の入院加療が必要であるが高次医療機関での加療は不要な患者を専用車両で地総センターに約20分で搬送する。

**地域総合診療センター開設によるメリット**

| 公立病院 | 大学病院 | 周辺地域 |
|---|---|---|
| ・入院患者数増<br>(大学病院からの紹介数増) | ・平均在院日数の短縮化 | ・総合外来開設による<br>受診機会の向上 |
| ・費用対効果の高い雇用 | ・急性期治療後の<br>後方支援病院の確保 | ・専門医療を要しない疾患の<br>入院治療が地元で可能 |
| ・各専門医の負担軽減 | ・大学病院スタッフの<br>負担軽減 | ・僻地診療所のバックアップ<br>病院としての存在 |
| ・医師不足の解消 | ・高度医療へ特化 | ・高度医療機関受診への<br>アクセスが良好に |

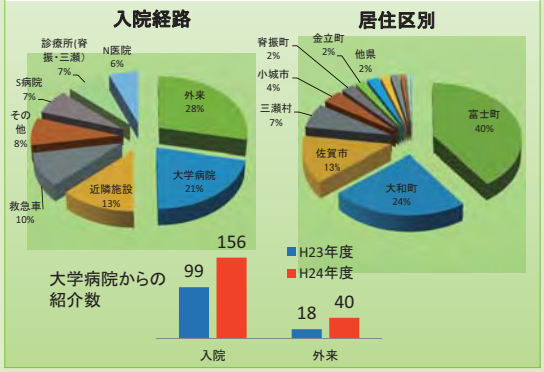
以上のような概要で、地総センターを開設することで富士大和温泉病院・大学病院・周辺地域に様々なメリットがあると考えられる。

富士大和温泉病院にとっては、①大学病院からの紹介患者数増加などによる入院患者数の増加。②費用対効果の高い雇用。③総合医配置による各専門医の負担軽減。④当直も含めた医師不足の解消。

大学病院にとっては、①平均在院日数の短縮化。②急性期治療後の後方支援病院の確保。③大学病院スタッフの負担軽減。④高度医療への特化。

周辺地域にとっては、①総合外来開設による受診機会の向上。②専門医療を要しない疾患の入院治療が地元で完結可能。③僻地診療所のバックアップ病院としての存在。④大学病院との連携が進むことによる高度医療機関へのアクセスの向上。などが挙げられる。

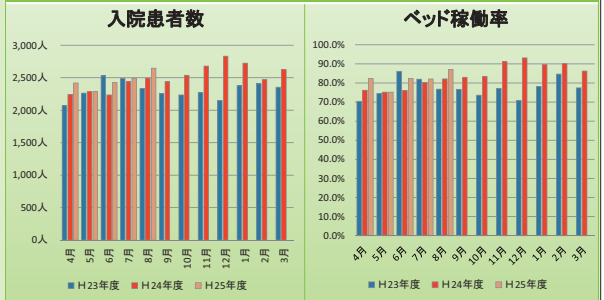
**地域総合診療センター入院患者内訳**




実際に地総センター開設後の状況を紹介する。まず、入院患者の内訳であるが、開設後16ヶ月で外来・大学病院からの紹介・近隣施設入所者・救急車・近隣病院・医院からの紹介で約90%を占める。また患者の居住区別でも病院周辺地域（富士町・大和町・三瀬村）と隣接する市町で約90%を占め、地域に対する貢献度が高いといえる。

**センター開設後の実績①**

**富士大和温泉病院　入院編**



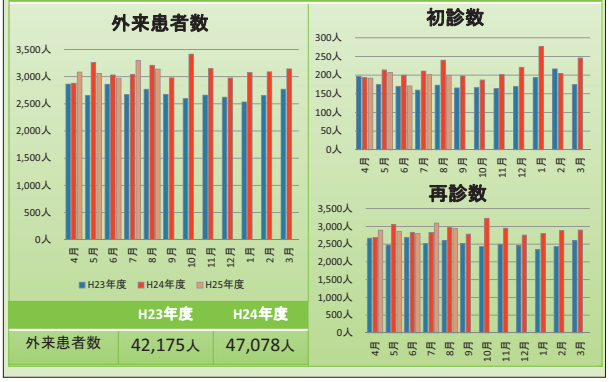

| | H23年度 | H24年度 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 27,736人 | 30,010人 |
| ベッド稼働率 | 77.3% | 83.9% |

次に、地総センター開設後の富士大和温泉病院の状況を紹介する。

入院患者数・ベッド稼働率はセンター開設後５か月を経過した頃から前年比で増加し、初年度で入院患者数は前年比8.2%（2,274人）増、ベッド稼働率は前年比6.6ポイント増であった。今年度も８月度までのデータであるが、入院患者数・ベッド稼働率とも順調な伸びを示している。

## センター開設後の実績②

**富士大和温泉病院　外来編**

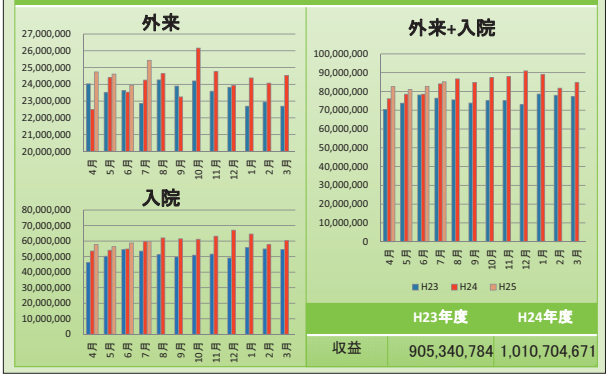



| | H23年度 | H24年度 |
|---|---|---|
| 外来患者数 | 42,175人 | 47,078人 |

外来患者数は初診・再診ともに地総センター開設２か月目より前年を上回っている。初年度は前年比11.6％（4,903人）増であった。今年度も８月度までで開設前の平成23年度を上回っている。

## センター開設後の実績③

**富士大和温泉病院　収益編**




| | H23年度 | H24年度 |
|---|---|---|
| 収益 | 905,340,784 | 1,010,704,671 |

最後に収益であるが、外来・入院ともに初年度は増益であり、特に入院収益は１年間を通して前年比を上回った。外来・入院収益を合算すると前年比11.6％(￥105,363,887)の増益であり、今年度も７月度までで順調に増益傾向にある。

### 結論

1）地域の公立病院で総合内科研修を行うことができ
2）医療連携により公立病院のベッド稼働率・患者数と収益が増加した。

公立病院の大学病院サテライト教育・診療センターにおける総合内科医育成および地域医療連携は有効である。

以上のように、地域の公立病院で総合内科研修を行うことができ、医療連携により公立病院のベッド稼働率、入院・外来患者数、収益の増加を認めた。公立病院の大学病院サテライト教育・診療センターにおける総合内科医育成及び地域医療連携は有効であるといえる。

### 将来的な展望

当地域総合診療センターで育成した総合内科医が県内各地域の中核病院で総合内科医（総合診療医）として診療にあたることで、県内の地域医療の充実化を図り同時に、次世代の総合内科医の育成にあたる。

佐賀大学医学部附属病院 地域総合診療センターHP
http://www.saga-cgmc.med.saga-u.ac.jp/

佐賀市立富士大和温泉病院HP
http://www3.bunbun.ne.jp/~fyshosp/

将来的には、当地総センターで育成した総合診療医が県内各地域の中核病院で総合診療医として診療にあたることで、県内の地域医療の充実化を図ると同時に、次世代の総合診療医の育成にあたる、という展望を持っている。